今月の窓

銀の匙

『銀の匙 Silver Spoon』は，北海道の大蝦夷農業高等学校（通称「エゾノー」）を舞台にした漫画である。「マンガ大賞2012」大賞を受賞し，テレビアニメ化され実写映画化も予定されているので，お読みになった方やご覧になった方も多いだろう。

主人公の八軒勇吾は，札幌市の進学校から「寮生活」を求めて入学した酪農化学科の1年生。クラスメートは実家の農家を継ぐとか獣医になりたいという具体的な夢を持っているのに，八軒は自分が夢を持たないことに焦りつつ，「豚丼」と名前をつけてかわいがっていた子豚の肉でベーコンを作ったり，文化祭でばんえい競馬を企画するなど，悩みながら真剣に高校生活を送っている。主人公以外のキャラクターも魅力的だ。卵型の体型から「タマゴ」と呼ばれる稲田多摩子。実家は酪農の大規模経営で，将来は高収益の農業経営で世界に負けない農業を目指す。野球部に所属しプロ野球選手が夢だが，実家の農家が借金で廃業し，地区大会の決勝で敗れたのち高校を退学した同級生もいる。なんてみんな真剣で，なんて仲間にやさしいのだろう。農業の厳しさと楽しさが詰まっていて，こんな高校生活はそんなにない。

エゾノーの食堂には「銀の匙」が掲げられている。個性的な八軒たちがエゾノーを卒業し就農したらおそらく多様な農業に従事するだろうが，それぞれが希望をもって農業を続けることができる十分な収入，「銀の匙」を持ってほしいということではないだろうか。

農業者が十分な所得を得ることは，エゾノーや農業者だけでなく，日本の農政そして農協の課題である。安倍政権は「農業・農村所得倍増」という目標を掲げ，そのために担い手への農地の集中，法人の育成，生産コストの削減，輸出や6次産業市場の拡大をはかっている。

足元では，これまでの日本の農業の中心的担い手であり，かつ農協の正組合員の核となってきた昭和一桁世代のリタイアが本格化し，農業構造は確実に変化している。販売農家と農業従事者の減少が続く一方，農業法人は増加し，一般法人の参入も急増している。また2011年の新規就農者は非農家出身者を中心に前年比増加となった。

農協はこのような構造変化に的確に対応し，農業者の所得向上に向けた取組みを続ける必要がある。営農経済事業と信用事業を中心に，多様化する農業者のニーズに対応することが一層求められているといえるだろう。すでに，取組みは始動している。TACなど担い手に出向く活動が行われており，また，実需者への直接販売や直売所での地産地消も広がっている。新規就農者への研修や支援に取り組む農協もある。施設の利用などで農業法人との結びつきを強める動きもある。

組合員のため，農業，地域のためという基本的な理念を持つ農協は，環境変化に対応し，将来を見据えて，柔軟に事業を展開することが可能な組織であると思われる。

（（株）農林中金総合研究所 取締役調査第一部長　斉藤由理子・さいとう ゆりこ**）**

農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/